

人 口 減 少 対 策 特 別 委 員 会 記 録

- 1 日 時 令和8年7月9日（木）
午前10時00分 開会
午前11時26分 閉会

- 2 場 所 第3委員会室

- 3 出席委員

委員長	伊 藤 謙 司	副委員長	藤 原 雅 彦
委 員	渡 辺 高 博	委 員	野 田 明 里
委 員	片 平 恵 美	委 員	伊 藤 優 子

- 4 欠席委員

な し

- 5 説明のため出席した者

・企画部

部長	加 地 和 弘	総括次長（政策推進監）	藤 田 英 友
シティプロモーション推進課長	中 沢 美 由 紀	シティプロモーション推進課主幹	鈴 木 博 宣

・福祉部

部長	久 枝 庄 三	総括次長（医療対策推進監）	小 島 篤
健康推進課長（保健センター所長）	寺 尾 佳 代 子		

・福祉部こども局

局長	山 崎 千 織	こども未来課長	矢 野 佳 美
こども未来課主幹	黒 川 由 美		

・教育委員会事務局

次長（発達支援課長）	佐々木 正子
------------	--------

- 6 委員外議員

な し

- 7 議会事務局職員出席者

議事課調査係長 伊藤 博徳

- 8 本日の会議に付した事件

- (1) こども・子育て政策（出生率アップを含む）に関する調査
こども・子育て複合施設について
(2) 定住・移住（Uターンを含む）政策に関する調査

9 会議の概要

○開 会 午前10時00分

●委員長：開会挨拶

●委員長：藤田誠一委員が特別委員を辞任され、伊藤優子委員が新しく特別委員に選任された。委員席については、藤田元委員の席に伊藤委員が座ることとし、ほかの委員については、現在の着席のとおりでよろしいか。

(はいとの声あり)

●委員長：それでは現在の着席のとおりに決定する。

(1) こども・子育て政策（出生率アップを含む）に関する調査

○福祉部長：挨拶

<説 明>

○教育委員会事務局次長（発達支援課長）：資料について説明

○こども未来課長：資料について説明

○健康推進課長（保健センター所長）：資料について説明

<質 疑>

●委員：マルチスペース、子供たちが自由に来て遊べるというところだが、そこで子供同士を遊ばせながら、親もつながりができていたらすごく素敵だなと思う。ただ、子供同士なのでトラブルとかがどうしてもあると思う。親がそれを上手に裁けたらいいが、そういう親ばかりでもないの、ここに職員を配置することは考えているのか。

○こども未来課長：子育て交流施設すくすくにはもちろん配置する。この大きな遊具のあるところに関しても、人数等は今から検討にはなるが、誰もいないということではなく、ある程度のスタッフが見守れるような環境ということで、検討していきたい。

●委員：そういうところで発達の課題とか見えることもあるので、ぜひそこはやってほしいと思う。

●委員：中高生も活用していけるようにとのことだったが、例えばちょっと勉強したいなとか、お友達とおしゃべりしたいなみたいなそういう場が、気軽にできるところが新居浜にはあまりないというのを、中学生とか高校生とかとのお話会みたいな時に毎回上がるが、そんなふうなここを使ってもいいのかというのが1点。あと、子育て支援はどうしても母親のほうに目が行きがちだと思うが、これからは父親への支援、男性の支援がすごく必要だと感じることがたくさんある。そういう名前なので仕方ないと思うが、母子保健とかってなると、そのイメージで父親が近寄りづらいと感じたりとか、4ページの業務内容とか機能を見ると、どうしても母という言葉がたくさん出てくるので、そういうイメージを与えてしまうのではないかと思うが、男性の支援、父親の支援をこれから今あるものよりちょっと深めていく考えはあるのか。男性、父親への支援について、どのようにこの中に機能を位置づけていくかみたいな考えがあれば、教えてほしい。

○こども未来課長：まず中高生の利用について、マルチスペース、休憩スペースはそれに該当するのかなと考えている。利用の仕方については、ここは勉強スペースですというのではなくて、ここで中学生、高校生がいろんな講座やボランティアとかで利用することにより、ここ使えるんだと思ってもらう中で、ここで時間を過ごすこともできるという形で利用ができ

るというふうに考えている。2点目については、1階の窓口のところでいろんな講座や、民間の方と連携した取組を今考えているので、その中で、父親が参加しやすかったり、父親がメインだったというものも、これから考えていかなければならないと考えている。

- 委員：マルチスペースは、子育てに特化せずに、地域との交流やいろんな可能性を広げる場所になっていくんだと思うが、その割にはスペースが小さいのかなと思った。また、いろんな意味でいろんな人、中高生はもちろん、これから増えていくであろう高齢者まで含めて、できたら自然に入っていていただく仕組み、僕的にはカフェなんかがあってもいいのかなと思っているが、とにかく人がたくさん入ってきてもらいたいと思う。ここに地域の人、高齢者がこれからいっぱい来たとして、トイレ関係とか、バリアフリーとか、そういう気遣いはしているのか。

- こども未来課長：トイレのバリアフリーに関して、やはりトイレについては女性の方だけにいろんな機能が備わっているということも結構あり、今まで課題が多いところでもあった。今回この施設をつくるに当たって、特に1階に関しては、男性側も女性側も利用のしやすさという面においては、小さい子供も使えるし、大人も使える、体が不自由な子供や高齢者も十分使えるような、全世代の方が利用できるような形で、今設計を進めている。

マルチスペースの広さに関しては、図面を見るだけでは、確かに小さめに見えるかもしれないが、入り口を入ったところから、特に部屋として仕切りをつけていない。そういった意味で1階全体をある程度、視認性等も含めてちょっと工夫をしていく形を考えている。

- 委員：いろんな機能がすごく集約されているが、市にヤングケアラー等支援連携を行う担当課はあるのか。

- こども未来課長：こども未来課が所管しており、教育委員会と連携しながら行っている。

- 委員：保健センターに空きスペースができるが、どのように活用するのか。

- 健康推進課長（保健センター所長）：保健センターの空いたスペースの活用について、保健センターに残る機能は医療対策係と健康政策係が残る。保健センターは市民全体の健康づくりの拠点として、健康政策係は、集団健診や健康相談、健康教育などの事業を行っており、通年にわたってそれらの事業を行う予定にしている。医療対策係は地域の医療体制の充実など、課題の解決に向けた取組を行っていくことになる。また感染症予防対策として、乳幼児から高齢者までの予防接種事業を展開していくということになる。

- 委員：保健センターは建物に入っても、どこに行ったらいいのか分かりづらいと思う。相談体制の機能を果たすために、建物内の部屋などはリニューアルするのか。

- 健康推進課長（保健センター所長）：現時点では、改修などの予定はない。現在の状態で使っていくということになるが、より分かりやすい案内を検討していく。

- 副委員長：この施設名称は、こども・子育て複合施設ということになっているが、来週、市民福祉委員会で上尾市の子ども・子育て支援複合施設であるAGECOCOを視察する予定である。仮の名称だとは思いますが、こども・子育て複合施設というのは長く、名称が大事だと思う。市民にとって、名前を聞いただけで、場所も分かるし、子供中心の施設なんだということが分かるような名称は検討しているのか。また検討するのであれば、市民から意見を聞いたりするのか。

あと、2階にDV・虐待対応とかの相談窓口があり、当然相談するところは個別に仕切って分からないようにすると思うが、動線としては1階から入ることになる。そこから2階に

上がるまで、どこまでプライバシーを確保しているのか。

○**子ども未来課長**：現在、高校生のアイデアコンテストを募集して、まだ審査中であるが、愛称というのがかなり出てきている。どういう形になるかは未定であるが、愛称については別途考えていく必要があるとは考えている。

動線に関しては、3階に発達支援の関係もあり、正面玄関だけだと入りづらい。この図では分かりにくいですが、1階には出入り口が3か所あり、メインとサブと通用口という形で用意している。そこから入って2階に行けるようにしている。DVの関係など、配慮が必要な人がいる場合にも備えて、3か所出入り口を設けて、そこを確認しながら対応できるような形で考えている。

●**委員長**：今、名称の話が出たが、せっかくここにきれいな施設を造るのであれば、ネーミングライツなどを検討してはどうか。

○**福祉部長**：誰もが分かりやすいネーミングとネーミングライツも選択肢として考えるべきだと思う。先進地の例を見ながら、いいところ取りしていくのもいいかなと思うので、企画部とかとも相談して考えてもらう。

●**委員**：児童発達支援センターについて、資材の高騰などで民間が手を引いてから、話が進んでいない。ここに児童発達支援センターを入れるという発想はなかったのか。

○**福祉部長**：児童発達支援センターを複合施設にという発想は最初からなかった。これは児童発達支援センターを民設民営で整備するという新居浜市としての一定の決定があったということと、児童発達支援センターを国の整備内容通りにしようとするとかかなり大きなものになってしまうので、それをここに持ってくるというのはちょっと難しいということ、児童発達支援センター自体が、過去に別の施設で発達支援センターとかとの複合施設を検討した際に、お互いの機能的なものから、混同されるのもおかしいという話もあり、なかなか同じところとするのは難しいものがあるという判断があったというものもある。

児童発達支援センターについては、今のところ整備に向けて検討している法人があり、資金繰りや人材育成をしていただいているところなので、そちらの状況を見守りながら、市としてもできれば整備できるような方向性で支援していきたいと考えている。

休憩 午前10時40分／再開 午前10時46分

(2) 定住・移住（Uターンを含む）政策に関する調査

○**企画部長**：挨拶

<説明>

○**シティプロモーション推進課長**：資料について説明

<質疑>

●**委員**：まず、新居浜に移住者として来ていただく人の対象はどのような層を対象としているのか。首都圏や都会から移住してくることを想定しているのか、それとも近隣からなのかで取組の内容が変わってくると思うが、移住の対象をどこに定めているのか。

次に、空き家バンクの窓口はシティプロモーション推進課でよいのか。

あと、最近は移住・定住というよりも、二地域居住とかふるさと住民登録制度とかの活用に移ってきているという話を聞いたが、そのあたりは考えているのか。

○シティプロモーション推進課長：1点目の移住の対象は、基本的には働き手世代や子育て世帯を中心に考えているが、幅広く新居浜に移住・定住してもらいたいと考えている。

次に、空き家バンクの窓口は、シティプロモーション推進課が担当となっている。

次に、現在、国のほうでも二拠点やふるさと登録制度は今年度始まるという話も聞いているが、まず制度の概要を確認して、新居浜で対応するのであればどういった内容になるのかを含め、今後の検討課題であると考えている。

●委員：先日、新居浜と連携協定を結んだ民間の空き家の活用をしている団体の方から、本当にびっくりするようなことを求めて、都会の人は田舎に移住しているというのを聞いた。私も東京から大島に遊びに来た人に、何もないでしょって聞いたら、いや何もないのがいいんだよって言われたことがあるので、私たちが考えている新居浜の魅力と、外の人から見た新居浜の魅力とか、移住してきた人が新居浜を選んだ新居浜の魅力には多分ズレがあるんだなと感ずることがある。担当課の人は、新居浜の魅力をどこだと感じているのか。そこにズレがあると、先ほどの対象としている方に届かなかったり響かなかったりすると思う。で、その幅広くの中でも働き手や、子育て世代をということであれば、その方たちに刺さる新居浜の魅力はどこだと思っているのかというのが気になった。

あと、空き家バンクについて、今回、経済建設委員会でも空き家の利活用みたいなところを視察に行くが、その中で、建設として行こうと思ったら、そこの担当が経済部であったり、どちらかという企画部寄りだったりとかで、行けないところがたくさんあった。空き家バンクと、空き家の活用の担当が新居浜は分かれているが、そこをもう少し上手にできると移住者対象の空き家としての活用とかができるのかなと思った。空き家バンクの担当課として、建設部や経済部との連携など、空き家バンクの活用というのをどのようにしていくのか聞きたい。

●副委員長：移住を決めた人の決め手はあったのか。なぜ新居浜に決めたのか。

○企画部総括次長（政策推進監）：野田委員が言う何もないのを求める人は一定数いると思うが、ほとんどは就職だと思う。生活の原資はお金なので、働き口があるのかということと、例えば保育園の待機児童がいなかったかが、子育て世代にしたら重要で、そういうところが重要になると思う。

建設部の空き家対策というのは、危険な老朽家屋の除却である。人口減少で空き家がどんどん増えている中で、例えば近隣の土地で雑草が生えて困っているとか、蜂や野良猫が住み着いて住環境が悪化して困っているなどの声もある。企画が行っている空き家の解消というのは、いわゆる空き家を活用して、移住してもらったり、リフォームをしたりという観点なので、なかなかそのすり合わせは難しい。活用する数よりもどんどん空き家のほうが増えているので、そのミスマッチングというのはどうしてもなかなか埋まらない。

●委員：移住した方の移住後の感想とか、新居浜への移住をぼんやりと考えている方から新居浜ってどういうイメージなのかを聞くような機会とかがあったら、さらに良くなるのかなと思うので、そういう機会を作ってもらい、また教えてもらえると嬉しい。

●副委員長：最終的に子育てがしやすいということであれば、新居浜の特色は2本柱だと思う。就職先があって、高専も入れて高校は6つある。総合病院も4つあるので、もっとその辺を新居浜市としてアピールしたらもっと増えるのではないかなと思うが、どうか。

○シティプロモーション推進課長：確かに移住の決定において、働き世代であれば子育てとい

った話をよく聞くので、今年度参加するフェアの中では、新居浜市のその特徴的なものを重点的にアピールできるような対策を取っていきたいと考える。

●委員長：野田委員の言うように、田舎アピールしたって無理だと思う。何もないところに来る人はいないと思う。

●委員：そういう何もないところを求めている都会の人がイメージする田舎よりは、新居浜は都会だと思う。多分本当にもっと何もないところ、辺り一面緑みたいなところを求められているとなると、その田舎ではないなとなる。

●副委員長：16ページの移住者数について、令和7年度は422人が移住してきたということでしょうか。

○シティプロモーション推進課長：令和7年度は422人である。

●副委員長：6月議会で、新居浜市の1年間の死亡者数が約1,600人、1年間の出生数が約600人と聞いた。単純計算で1年間に1,000人減っていると思ったが、それに対して、422人が入ってきたということは、新居浜市の1年間の正味の減少数は500前後ということか。

○企画部長：転出もある。この移住者数は、アンケートの結果によるものであり、県の定義で転勤とかやむを得ないものは除いている数である。

●副委員長：新居浜市では1年間で大体何人ぐらい減少しているのか。

○企画部長：社会増減と自然増減で1,200人ぐらいだったと思う。亡くなる方と生まれる方の差で1,000人ぐらい、社会増減で二、三百人なので、千二、三百人が減っている。

●委員：この移住者定義に沿った移住者ということで、令和7年度は422人というアンケートの結果だと思うが、新居浜市の制度を使って入ってきた人は何人いるのか。

○企画部長：23区から移住してきたのは1世帯。

●委員：1世帯であればなくてもいい気がする。

○企画部長：国の制度を活用した事業である。

●委員長：この移住者422人は、移住者やけど300万円の対象とはならないということでしょうか。

○シティプロモーション推進課長：300万円については条件があるので、全員が全員対象になるというものではない。例えばサイトに登録されている求人に就職するとか、23区からの移住とかいう条件があるので、移住者全員が該当するものでもないというところで、利用者についてはある程度限定されるのではないかなと思う。

●委員：移住してきた方は、その後定住しているのか。

○シティプロモーション推進課長：追いかけて確認取れる方については確認しているが、現在のところ概ね定着していただいているという話は聞いている。

●委員：9ページの移住体験促進事業について、ツアー申込者は15世帯とか21世帯とあるが、結局ツアーに参加する人は令和6年度、7年度とだんだん減ってきて、1世帯しかいない。今年は5世帯の予定となっているが、今まで参加した人が移住した数はどのようにになっているのか。

○シティプロモーション推進課長：ツアーの参加者については、まず申し込みの段階で、新居浜市に移住する意思があるかどうか等も確認した上で、参加していただくということで、今年度の5世帯についても、事前にヒアリングなどを行い、今後新居浜市への移住が見込めるのであれば、ぜひ来ていただきたいと思っている。

今までの実績については、令和5年度のツアーに参加した1組が令和6年度に移住した。

●委員：本当に移住したい人だったら、こんなことしなくても来たい人はいると思うので、本当に必要な事業なのかなと思う。

○企画部長：令和6年度、7年度は移住ツアーとしては実施していない。別事業の中の一商品的なものである。

○シティプロモーション推進課長：応募した人の中で、アンケートに答えてもらって参加してもらった。

○企画部長：そこで1件実績があったので今年ももう一回やってみようとなった。

●委員：年間400人は何もしなくても来ている中で、これだけお金を使って1件来ました、こっちもお金使って1件来ましたっていうのはちょっとなんかもったいない気がする。

○ 閉 会 午前11時26分